室蘭民報
MUROMIN
2018年（平成30年）
1月26日（金）
（昭和20年12月28日第3種郵便物認可）第26207号（日刊）

父の願いを受け入れ

スタッフが環境づくり

施設で迎える「最期」
看取り
～西胆振管内の現在～
～3～

セイントヒルズで最期を迎えた長岡さん㊤（伊達）

2016年（平成28年）6月12日午前7時18分。伊達市舟岡町のケアハウス「セイントヒルズ」の一室で、89歳の男性が静かに旅立った。

男性は長岡巴さん。「父は、最期の瞬間まで『十分に生きた』という言葉がぴったり」。次女の大濱美智子さん(61)＝神奈川県鎌倉市＝は、父を看取ってくれたセイントヒルズのスタッフに感謝しながら、父との思い出を静かに話す。

●決断と覚悟

長岡さんは警察官生活最後の勤務地・伊達市を、定年退職後の定住先に選んだ。01年には「いわゆる突然死」（大濱さん）で妻に先立たれたが、「町内会報の発行や、独居老人の見回りなどの自治会活動にも熱心だった」（同）。警察官OBらしく、地域のために汗を流す日々を送った。

充実した毎日を過ごす長岡さんだったが、10年に大腸がんを患った。その後も、肺がん（11年）や膀胱がん（14年）が見つかり、「薬と火気の管理に自信がない。食事も大変」として、セイントヒルズへの入所を決断した。

15年4月に入所した長岡さん。笑顔で他の入所者とも積極的に交流したり、菊を栽培したり、パークゴルフを楽しんだり…と、「活動的に過ごされた」。施設長の長沼雄二さん(38)は話す。

年末。肺の腫瘍が大きくなっている、との診断を受けた長岡さんは、「もう、積極的な治療は望まない」と、長沼さんや看護主任の碁石一枝さん(45)らに、その先の覚悟を告げた。

●「看取り」への願い

身の回りのことは自分でできた長岡さんだったが、入所1年後の16年4月。咳（がい）や呼吸困難感などが現れ、麻薬性鎮痛剤の服用が始まる。終末期への移行。「セイントヒルズで、自分を看取ってほしい」。ベッドで過ごす日が多くなり、長沼さんや碁石さんの手を握って訴えた。

社会福祉法人思誠会（大久保裕子理事長）が運営するセイントヒルズ。そもそも、長岡さんが、セイントヒルズを選んだのは、伊達署虻田派出所（当時）に勤務していた35年ほど前から交流がある大久保理事長に話していた「いずれは、あなたの施設でお世話になりたい」という思いからだった―という。

入所前から、鎌倉と伊達を往復する〝遠距離介護〟を続けてきた一方、入所後も「最期は住み慣れた自宅に連れて帰りたい」「施設では限界がある。最期は自宅で自分が看取る」と考えていた大濱さんも、こうした父の願いを静かに受け入れた。

●不安の払拭へ

が、セイントヒルズでは初のターミナルケアだ。隣接する聖ヶ丘病院（目良浩一院長）に訪問診療部が開設、セイントヒルズでも訪問診療が行われるなど、態勢は整いつつあったが、「（看取りは）初めて。どこまでできるのか、という不安ばかり」（長沼さん）。

不安を少しでも払拭するため、職員アンケートや話し合いでスタッフの意識改革を進め、「残された時間をどのように過ごしてもらうか、だけを考えた」環境づくりを進めた。

もちろん、施設内の態勢などの改善を進める。介護・看護間での共有ノートやターミナルケア用の記録用紙を作成し、長岡さんの状態や呼吸苦の程度、痰の量や色、内服薬変更時の副作用…などを書き込み、スタッフ全員で情報の共有を図ってきた。

●安らかな最期

残された時間の少なさを感じ取った長岡さんは16年5月。「帯広に兄妹らが集まる。みんな高齢だ。顔を合わせるのは最後。絶対に行きたい」とスタッフらに懇願する。

ベッド上で過ごす日々が多くなり、食欲も落ち、在宅酸素とがん性疼痛剤を用いる生活を余儀なくされたが、現役の訪問看護師でもある大濱さんが同行することで、5月4～5日に、その願いは実現した。

さらに、5月18日には「草木が好きな理事長に、菊を育ててほしい」として、大久保理事長宅を訪れて「菊の植え込みや手入れ作業」を指示。6月2日には「自宅の庭を見に行きたい」と一時帰宅もした。「お世話になった職員に、ごちそうしたい」として、6月7日には伊達市内の焼き肉店で職員らと楽しい時間を過ごす。

6月10日には大久保理事長宅を再び訪れ、「菊の手入れ作業」を指示。その2日後、眠るように息を引き取った。「やり残したことがある」としていたことを、すべて実現したからか。「安らかな最期」（大濱さん）だった。

（松岡秀宣）

大久保理事長（右上）宅で（左上から）大濱さん、碁石さんに「菊の手入れ作業」の指示を終えた長岡さん。この2日後に静かに旅立った＝2016年6月10日（写真はセントヒルズ提供）

この連載へのご意見、ご感想などについて、室蘭民報「施設で迎える『最期』・看取り～西胆振管内の現在～」取材係までお寄せください。郵便は〒051－8550室蘭市本町1丁目3番16号へ。ファクス0143・24局1337番、電子メールinfo@muromin.co.jpでも受け付けます。

次回は2月4日付に掲載予定。